

『ジーニアス英和辞典』 第5版の意義

—最近の学習英英辞典の動向から

南出 康世



◆はじめに

学習英英辞典編集に関わる海外の動向に触れることから話を始めたい。一つは、*Macmillan English Dictionary for Advanced Learners* (MED (AL)) の編集主幹でもあり、辞書学者としても著名な Michael Rundell の「紙の辞書の終焉」の宣言*である。かなり大胆な宣言で関係者を驚かせている。彼の予告する「紙の辞書終焉」の理由を3つ上げると、次のようなものになる。

(1)英語の多様化・変化が激しすぎて、5年に1回程度の改訂では、紙の辞書はとてもこれに追いつけない。

(2)コンピュータ・コーパスなどにより辞書に収録すべき情報が増えて、紙の辞書には収まりきらない。無理に収めると携帯版というより机上版に近い形となる

(3)インターネット上の辞典はパソコン、スマートフォンを所持していれば、世界各地でいつでもどこでも検索できる。

ここで主な英語辞典の出版形態について見ておこう。今年4月に発売された *Longman Dictionary of Contemporary English*⁶ (LDOCE⁶) はペーパーバックでもサイズが22.4×14.8×6.6cmで重さは1580gもある。これをカバンに入れて持ち歩いている姿は想像し難い。この辞書にはDVD-ROMが付属されておらず代わりにpin (暗証番号) がついていて、インターネット上にあるLDOCE⁶にアクセスできるようになっている。ネット上の辞書では発音が聞け、語義、新語の収録も豊富で情報量が多い。インターネット辞書が主

で、紙の辞書はおまけという感じがする。*Collins COBUILD Advanced Learner's Dictionary*⁸ も紙の辞書として発行されているがDVD-ROMは付いていない。一般英語辞典 *American Heritage dictionary of the English Language*⁶, *Collins English Dictionary*¹²も本年中に出版が予告されているがいずれも紙の辞書である。ただし後者はKindle版と同時発売される。いずれにしても現在のところ紙の辞書はほそぼそとはあるが継続していて終焉はしていない。

さらに関連する話題がもうひとつある。集合知辞典 (crowd-sourced lexicon; 原則として執筆・訂正が一般の人々に開かれている辞典。百科事典であるがWikipediaなどが代表例) と専門知辞典 (expert-sourced lexicon; 専門編集者が執筆・編集) である。紙の辞書として出発した英語辞典は、専門知辞典でありその伝統は上で見たとおり今も続いている。集合知辞典はインターネットの普及と大きく関わっている。現在ネット上の多くの辞典、特に新語辞典は集合知辞典である。Macmillanには2つのネット辞書がある。*Macmillan English Dictionary* と *Open Dictionary* である。前者は紙の辞書MEDを引き継ぐもので、当然専門知辞典である。年2、3回程度の改訂を行いup-to-dateを図っている。後者はその名から推測されるように集合知辞典で、投稿された項目は多くないが、もしMEDがここから語を採用する場合は、専門知辞典式に書き改めるという。

◆『ジーニアス英和辞典』第5版(以下G5)の特長

G5はもちろん紙の辞書の伝統を受け継ぎ、専門知辞典である。G5は時代のニーズに答えるため全面的な改訂を行った。主な改訂方針を紹介しよう。

(1)すべての語及び語義を徹底的に見直し、必要に応じて語法欄と語法注記を新設した。特に基本動詞、助動詞、前置詞、人称代名詞、指示代名詞、不定代名詞、数量詞、冠詞など辞書の根幹を成す語は、相互関係を重視しつつ全面的に見直し、語法欄や語法注記を充実させ、「語法に強いジーニアス」をさらに強化した。語法についてはpp.8-9で詳述されているので、そちらを参照されたい。また、類語比較欄も数を増やした。似た意味の語同士の比較を通して、語の意味・使い方の理解をより深めてほしい。

(2)表示やラベルは「見てすぐわかる」ものでなければならない。G5での主な改善点をいくつかあげてみよう。従来、用例内の見出し語は「～」で代用していたが、これをスペルアウトすることにした。また、動詞の構文表示は従来の7文型を踏襲したが、SVM, SVOMの表記をより把握しやすいようにSV 副詞(句), SVO 副詞(句)とし、user-friendlyに徹した。

(3)コンピュータ・コーパスのおかげでより詳細なコロケーション情報が得られるようになった。これまで頻度の高いコロケーションは用例として載せていたが、数が多いと見にくくなる。そこでG5では日常よく使用する語については右上のようなコロケーション欄を設けて一覧性を高め、暗記しやすくした。詳しくは16ページを参照されたい。

(4)改訂版においては旧版にない新語(義)を載せることに努めるのが常である。G5では約1000の新語(義)を採用した。臨時的に使われる語(nonce word)と思われるものは避け、また無味乾燥にならぬよう、なるべく語源的な情報をつけるよう心がけた。さらに見出し語の異つづり・異

② [the ~] (自然)環境(空気・水・土地・植生など) || the global environment 地球環境 / protect the environment from destruction 環境を破壊から守る / Using fewer chemicals in agriculture will contribute to the conservation of the environment. 農業において化学肥料の使用を減らすことが自然環境保全に寄与するだろう。

コロケーション+ **動詞+environment** damage [harm, destroy] the environment 環境を破壊する / pollute the environment 環境を汚染する / degrade the environment 環境を悪化させる / threaten the environment 環境を脅かす / affect the environment 環境に影響を及ぼす / preserve [safeguard] the environment 環境を保護する / respect the environment 環境を大切にする / be concerned about the environment 環境に配慮する / clean up the environment 環境をきれ

コロケーションの例 (見出し environment)

表記もインターネット上の検索機関、英語辞典、コンピュータ・コーパスを用いて徹底的に見直した。

(5)巻末にカラー図版の Picture Dictionary を付けた。文字だけでは得られない情報を視覚的に得られる。また、教室のコミュニケーション活動などで役立ててほしい。

◆おわりに

確かに、「英語の多様化・変化が激しすぎて、5年に1回程度の改訂では、紙の辞書はとてもこれに追いつけない」という指摘はある面正しい。しかし英語のコアの部分は短期間に劇的に変化しない。4, 5年の周期で改訂する紙の辞書でも十分に対応できる。紙の辞書の方が、英語のコアを成す語の語義の展開、構文、語法をじっくり学べる。英語の先端的な部分の変化を知りたい人は、集合知辞典のインターネット辞書も併用すると良いだろう。様々な知の道具を活かして、英語学習に取り組んでいただきたい。G5がその一助となることを願うばかりである。

* Rundell, M. 2013. "Printed and digital dictionaries," *English Teaching Professional* 86, May 2013.

(みなみで こうせい・大阪女子大学名誉教授)